

熊本県救護施設協議会

# 熊救協

<http://kumakyukyo.sakura.ne.jp>

真和館におけるアルコール依存症者入所状況

真和館 副施設長 藤本 基子

真和館は平成18年4月28日にオープンし、平成22年度は5年目を迎えております。

さて、真和館オープン前の平成18年1月19日から3月下旬まで、入所希望の問い合わせを頂いた方を訪問しました。80数名の方にお会いする事ができ、その中の19名がアルコール依存症者でした。又、診断名は無いけれども明らかにアルコールが関係していると思われる方が10名程おられました。

元々真和館は経過施設として出発する事になっておりました。しかしこのように早い段階からアルコール依存症者の入所が見込まれ、対応を余儀なくされていた事になります。

オープンから先月11月までの、延べ入所者数は117名であり、その中のアルコール依存症者は49名、約41.8%となります。平成22年11月現在の入所者数は55名、その中のアルコール依存症者は24名、約43.6%となっております。

ここ2年程、飲酒の問題はお陰様で安定しております。しかし、過去には飲酒についての失敗例が数多くあり、その対応には大変苦勞し、全職員で懸命に取り組んで参りました。その結果、「飲酒が原因ではないか」という事を念頭に置き、問題意識を持って対応する事が大事だという事を全職員が実感として得ることができました。やっと、初歩的段階に辿り着いた事になります。

心の安定を図り、いかに飲酒させない環境を整えるか、地域への自立をどうするか、など今後の課題は山積しております。



(真和館全体図)

## 【千草寮】 ~ミニスポーツ大会&バイキング~



久々に、外へ出てスポーツに触れる機会を設け、皆で楽しみたいと思い、ひかわの里GHの皆さんを招待しミニスポーツ大会を企画したところ、前日には雨が降りもう出来ないかなあ?と、あきらめていましたが、朝には雨がやみ、すばらしい晴天となり開催することが出来ました。

大玉ころがし、玉入れ、飴食い競争、風せん割り等々、紅白に分かれ競いました。応援にも気合いが入り大いに盛り上がりました。終了後、業者へ依頼し焼き肉、焼きそばそれに、豚汁、おにぎり、デザートもあり、運動した後のバイキングは食欲も旺盛で大盛況でした。



## 【天草園】 ~ボランティアクラブ~地区公民館清掃



天草園では、ボランティアクラブの活動として、年間を通して地域の色々な場所の清掃作業に取り組んでいます。保育園・小学校・地区グラウンド・旧中学校グラウンド・供養塔公園・各地区神社(5ヶ所)・公園・地区公民館・市公民館・各地区公民館(5ヶ所)等の清掃作業や県道沿いのクリーン作戦(空き缶等のゴミ拾い)等を実施し、地域よりたいへん喜ばれています。

この活動は、一般的な奉仕作業としてではなく、生活全てをお世話になっている利用者が、すべき当たり前の活動としてとらえ、利用者が出来ることを継続して取り組み、何らかの形で社会の役に立つことを目的としています。

又、利用者自身も、活動を通じて達成感や感謝されることにより、自尊心や施設や地域社会での居場所を見つけることにもつながり、目に見える形以上に利用者自身感じるものが大きい活動になっていると思われまます。

今後も、利用者の高齢化・重度化の進行により厳しいものがありますが、余暇活動とのバランス良い実施に努め、利用者の生き甲斐ある生活をお世話出来ればと思ひます。



## 【菊池園】 ~シーズン3 看護師として頑張ります!~



熊救協広報誌15号で紹介した入所者がついに就職が決定しました。(おめでとう) 菊池園入所後、平成21年9月から自立生活を考え、担当者(福祉事務所、施設職員)と相談し、施設内では自治会作業班の役員として活躍し、施設外ではごぼう畑の手伝いから看護自習を行ない、入所当時と比べると“別の人”の様になり、今回本人が希望していた看護師の仕事に就くことができました。これからは大変になりますが今までの自分に負けないで頑張りたいとおもいます。(担当者)

本人談：これからは、一人でも多くの患者さんに温かみのあるお世話ができればいいと思っています。施設生活を無駄にしないようこれから努力して誰からも愛される看護師を目指して頑張ります。



熊救協ホームページ <http://kumakyukyo.sakura.ne.jp>

## 熊救協2010 No.17 編集後記



早いもので、今年も師走を迎えました。歳を重ねる毎に一年が短く感じられるようになってきました。今年を振り返ってみると、創設30周年記念行事や運動会、旅行と、一年を通して行事も充実していて、日々忙しく過ぎ去ったように感じます。年頭に掲げた目標を、どの程度達成できたろうか、と自問自答しています。今年の反省を来年に活かしていきたいものです。

《熊救協調研委員：田上 成美(野坂の浦荘)》

編集：熊本県救護施設協議会  
調査・研究委員会  
発行：熊本県救護施設協議会

事務局：〒861-2401 熊本県阿蘇郡西原村烏子3072  
真和館 Tel (096)279-1121  
Fax(096)279-1122

## 内部研修会報告 銀杏寮編

「1人暮らしをしたいけど敷金や礼金は生活保護費から支給されるの?」「生活保護受給者の権利と義務ってなに?」など、利用者の方から日々さまざまな質問が寄せられますが、なかには答えに困ることもあります。

そこで職員が生活保護法を学ぶ一環として、熊本市福祉事務所よりお招きして勉強会を開催しました。事前にお問い合わせした質問事項に対し、私達でも分かるよう丁寧に説明を頂き生活保護法について知識を深める良い機会となりました。

今後も様々な研修を通じて、職員の資質向上に努めていきたいと思ひます。



## 熊救協研修委員会 報告

### 第1回熊救協職員研修会(H22.6.24)

場所:阿蘇郡西原村構造改善センター(小会議室)

熊救協藤本会長の挨拶の中で研修を受けるにあたって、学ぼうとする姿勢やどう仕事に取り入れられるかが大切である。

仕事に対しての問題意識を持つ事、計画を立て具体的に行動する、仕事をする上で最も大切なことは「誠」である。ということでした。

午前中は、「障がい者と認知症について」をテーマに、益城病院松永医師に講話をお願いいたしました。老化による、ものわずれと認知症の違いは、記憶障害、失見当職、着衣失行、失語、実行機能障害等があり、徘徊、妄想もある。本人の苦しみを受け入れる共感的、受容的な受け止め方が必要で、「説得より納得」である。また、認知症には、治療可能なものもあり、早期発見によりその方向性をみつけ治療を行う事も大事である。認知症と間違われやすい症状や四大認知症疾患、重症度の把握と対策の講話がありました。

午後からは、「感染症予防等について」をテーマに、熊本県健康福祉部健康危機管理課感染症対策班財津課長補佐に講話をお願いいたしました。

感染症とは病原性微生物の毒性が増殖し、免疫力が落ちている人に発熱、腹痛、下痢などの症状をもたらすことである。病原性微生物の種類や感染経路、主な感染症の感染経路、熊本県での発生状況、感染症の予防と対策として感染性胃腸炎を例に講話を受けた。感染性胃腸炎の特徴や調理従事者の検便の徹底、嘔吐物の処理やその後の消毒方法、症状のある方の隔離、介護職員のうがい、手洗い、マスクの対応の徹底、集団発生の再発防止策等の講話がありました。

### 第2回熊救協職員研修会(H22.11.11)

場所:熊本県交流会館パレア(第1会議室)

研修会の目的は、近年の福祉を取り巻く環境は大きく転換しようとする中、セーフティネットの役割を担う救護施設としても時代の動向を的確に見通し、今後に備える必要があり、又、矯正施設退去者のうち高齢又は障がいにより自立した生活を送ることが困難である方を社会福祉施設に繋げるための、地域生活定着支援センターが各県に設立され始めました。今回の参加者は、県内の救護施設職員はもとより、県外(九州地区)の救護施設職員、熊本県社会福祉課、各福祉事務所及び熊本県社会福祉協議会等の関係機関にご案内申し上げたところ、総勢約80名という多くの方に参加いただき開催することが出来ました。午前中は「社会福祉をめぐる動向について」をテーマに、全社協高齢・障害福祉部古田部長に講話をお願いいたしました。古田部長には、お忙しい中に又遠方より来熊され新成長戦略、政府・与党社会保障改革検討本部設置・地域主権改革・行政刷新会議・新しい公共・介護保険関係等、項目に沿って社会福祉の現状及び動向を丁寧に説明いただきました。午後からは、「更生保護施設について」をテーマに、更生保護法人熊本自営会松山施設長に講話をお願いいたしました。更生保護施設とは、救護、援護、更生緊急保護の該当者で、引受人や帰来先がない人を引き受け寄宿させ、自立、更生と健全な社会復帰を援助する法務大臣許可の民間施設で、日常の対象者との関わりやエピソードを交えながら、受け入れから退所までの経緯を具体的にわかりやすく説明いただきました。

引き続き「触法障がい者の支援について」をテーマに、熊本県地域生活定着支援センターの峯友所長に講話をお願いいたしました。当センターは平成22年8月16日に事業主体の熊本県から受託を受け社会福祉法人南高愛隣会により開設され、矯正施設等を退所した高齢者や障がい者に対して、必要な福祉サービスにつなげるための連絡調整・支援を行い、退所後の円滑な社会復帰と再犯防止を目的とした事業であることなどの説明を頂きました。

最後に今回の研修会にお忙しい中又早朝より参加協力いただきました講師関係機関の皆様を初め、救護施設職員の皆様方に厚くお礼申し上げます。



## 各施設トピックス



### 【真和館】 ~真和館東館竣工する~



平成22年11月5日に、真和館東館竣工式が無事執り行われました。

さて、この度、東館の建設をさせていただくことになりましたのは、既存の建物である本館は国庫基準に近い面積の中で、入所者の居室や食堂あるいはトイレ等に「ゆとり」を持たせた設計となっており、その分、事務室、介護スタッフ室、医務室などが狭く、職員の職場環境が劣悪な状況にありました。そこで、この問題を解決するために、新しい事務所を建てることになりました。折角の増築ですので、入所者の方々のクラブ活動や講演会あるいは映画鑑賞会やカラオケの場として、2階部分に学習室及び図書館を造り入所者サービスの向上にも併せて資することにいたしました。また、地域の方々にも、この東館をカラオケの練習などに、是非使って頂き、交流をさらに深めていければと考えております。



### 【野坂の浦荘】 ~楽しい調理実習~



毎年自立に向けた支援の一つとして調理実習を行っています。炊飯や簡単なおかず作りを身に付けることを目指して、献立作りから調理までの行程や役割分担までを、参加者で話し合い臨みました。実習では、参加者間に教え合いや助け合いの姿が生まれると同時に、普段話す機会の少ない人とも話が弾んでいました。今回はチャンポン、餃子、おにぎりでしたが、個性豊かなおにぎりが並びました。当施設では自ら作った野菜を調理することもあり、喜びもより一層大きいようです。協力しあい作りあげた料理の味は、もちろん「美味しかった」ようです。

### 【しらがね寮】 ~社会見学旅行~



毎年、利用者が楽しみにしている社会見学に来る10月20日から1泊で天草方面に行って来ました。1日目は、みすみフラワーアイランド、わくわく海中水族館シードーナツを見学しホテルに着きました。夕食時にはカラオケ大会最後には全員での踊りとなり笑い声いっぱいでも賑わいました。2日目は、パールラインめぐり遊覧船に乗り、藍のあまくさ村で買い物をして帰寮しました。食事は天草ならではの魚料理を満喫し、利用者は久しぶりの外出で笑顔が絶えない社会見学となりました。利用者の皆さんは来年どこになるか楽しみにしておられることでしょう。



### 【友愛会银杏寮】 ~音楽の力~



みなさんは「音楽療法」をご存知でしょうか？音楽療法とは音楽の持つ特性(人間の心・体・魂に働きかける音楽の素晴らしさなど)を用いて、心身の健康、生活の質の向上自己実現に向けて、音楽を意図的・計画的に利用することだそうです。

银杏寮では平成16年から導入し、音楽療法士の八木恵美子先生に毎月2回お越し頂き、20名程の方が歌や楽器演奏にと楽しく活動されています。

現在は、毎年3月に地域の皆さんをお招きして開催する演芸会のステージを目標に励んでいます。